

差別を認める内閣なのか

自民党の杉田水脈氏を政務官に起用したことについて、毎日 18 日社説は表題のように批判しているので紹介する。

差別的な発言を繰り返してきた国会議員を、どんな理由から政府の要職に起用したのか。任命した岸田文雄首相の見識を疑わざるを得ない。

第 2 次岸田改造内閣の総務政務官に就任した、自民党の杉田水脈衆院議員のことだ。安倍晋三元首相らの後押しにより、過去 2 回の衆院選では、比例単独候補として党から優遇されてきた保守系議員である。

杉田氏は 2018 年、月刊誌「新潮 45」への寄稿で、LGBT などの性的少数者について「彼ら彼女らは子供を作らない、つまり生産性がない」と記した。

20 年 9 月の党会合では、性暴力被害者の相談事業をめぐって「女性はいくらでもウソをつけますから」と述べた。女性からの申告に虚偽があるかのように受け取れる発言だった。かつて国会質問で「男女平等は反道徳の妄想だ」「男女差別は日本社会にはなかった」などと発言したこともある。

杉田氏は世論の批判を度々浴びたが、自説を明確に撤回せず、あやふやな弁明に終始してきた。政務官就任の記者会見では「過去に多様性を否定したことも、性的マイノリティーを差別したこともない」と言い張った。

不適切な人事は杉田氏に限らない。「性的少数者は種の保存に背く」という趣旨の発言を今年の党会合でしていた、築和生衆院議員は副文部科学相に就いている。

性的指向に基づく差別や女性蔑視は、国政を担う者として、決して許されない。

自民党の責任も重い。第 2 次安倍政権以降、自民党議員の差別的な発言が目立つ一方、党はあいまいな対応にとどめてきた。差別を許容する土壌があるのではないか。

弱者や少数者に対する差別・偏見の根絶は、国際社会の基本理念である。首相は常々「多様性の尊重」を訴え、主要 7 カ国 (G7) の首脳は、性的指向に関わらず平等に暮らせる社会の実現を目指すことで一致した。

今回の人事がこれに逆行しているのは明白だ。「差別を容認する内閣」という誤ったメッセージを内外に発信しかねない。首相は即刻、人事を見直すべきだ。

フォトジャーナリストの安田菜津紀さんも起用に疑問を呈する。「杉田氏は就任会見で『多様性を否定したこともなく、性的マイノリティーの方々を差別したこともない』と述べましたが、自身の発言の問題を理解せず、顧みようとしない姿勢が浮き彫りになりました。そのような人物が、政府の、しかも社会の基盤を作る総務省の要職に就くことは、岸田首相の任命責任が問われます。政府は、差別問題は考慮に値せず、優先順位が低いものだ、と社会に発信していくことになります」(mainichi.jp 19 日)

(2022 年 8 月 21 日)